

初夢
節分夜初夢

〔増山の井〕初夢、立春の朝の夢也。

〔山家集^上〕立春の朝よみける

年くれぬ春くべしとは思ひねにまさしくみえてかなふ初夢

西行上人

〔好色一代男^三〕一夜の枕物ぐるひ

二日[○]正は越年^{とこ}にて、或人鞍馬山に誘はれて、一原といふ野を行けば、厄拂の聲夢違ひの猿の札、

寶舟賣など、綱柁をさして鬼打豆、宵より扉をまめて、[○]下

〔浪花の風〕寶船を賣ること節分の日の事にして、正月二日に賣ことなし、節分の夜の夢を初夢と

なすこと、事理に叶へりと云ふべし、江戸にて正月二日夜を初夢とするは、誤なるべし、

〔嬉遊笑覽^八〕初夢[○]中、日次紀事[○]中、この説にては除夜の夢をいへり、[○]中、日次紀事の説は誤

れり、いつにても節分の夜の初夢とするなり、

除夜初夢

〔改正月令博物筌^{正月}〕初夢^{大晦日夜より、元日あかつき}にいたるまでに見る夢也、

〔俳諧歳時記^{正月}〕初夢、寶船敷、大晦日より元日に至るの夢を、はつ夢と稱す、

〔日本歳時記^{七月}〕晦日、此夜、猿の形を圖して枕に加へ侍れば、悪夢を避るとて、今の世俗にす

る事なり、[○]中、又今夜船を畫て櫛の下に藉事あり、

〔近世事物考〕寶船[○]中、近き頃まで終晦日にせしなり、季吟の句にも、よべは舟あすはふくわら式

さ法とあり、是よべは俗にゆふべにて、昨夜は舟を枕に敷けさは元日にて、福わらとて新敷菰を

門口に敷たるをよめるなり、季吟は元祿の頃の人にて、芭蕉の師なり、されば此頃迄は、舟は晦日

に敷たるなり、正月二日に成たるは、至て近き頃なり、

元日夜初夢

〔神代餘波^下〕當世正月元日、朝とく寶船の繪うりありくを買て、元日の夜枕の下に敷て、初夢に吉

事を見るよし也、今は二日の曉なるを心得たがへて、二日の初夢と思ふ人もあれば、二日にもう